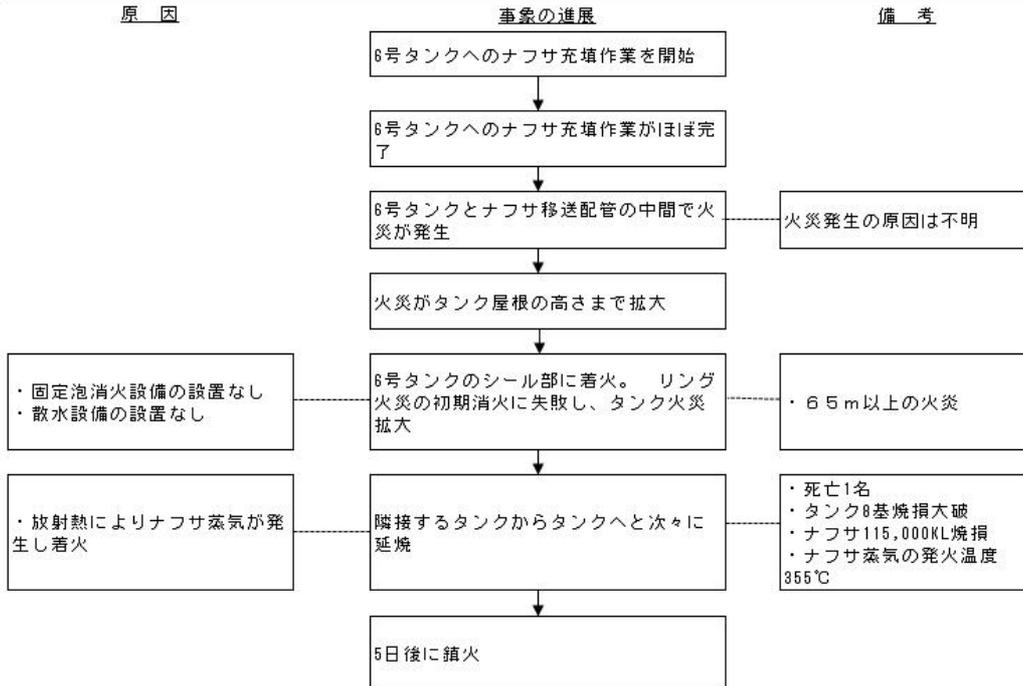




ナフサタンクと隣接タンク7基の大規模火災

事象進展図

00233	ナフサタンクと隣接タンク7基の大規模火災
発災年月日	1981年8月20日
装置	貯蔵・入出荷設備
運転状況	定常運転中・ルーチン作業中（ナフサタンク受入終了時点）
特徴	タンク火災の放射熱により加熱された隣接タンクが次々と延焼したタンク火災



再発防止対策
(記述なし)

安全専門家のコメント
<p>当該事故はタンク火災としては8日間燃え続け、8基のタンクが大破した史上最大規模の事故である。</p> <p>爆発火災事故として史上最悪となったのが、事例番号173にある1984年11月19日にメキシコのLPG供給所で発生したブレイビー（加圧容器内で平衡状態にあった液体が容器の破壊により急激に大気圧下に暴露され過熱状態となる）である。ブレイビーにより直径380mのファイアボールができ、火災は36時間続き、死者500名、負傷者7,000名と記録にある。</p> <p>製油所・油槽所で仕事をする私たちは、大規模な油・LPGを扱っていることを改めて認識したい。</p>

引き金事象発生の原因
・放射熱により隣接タンクから可燃性蒸気発生

事故の引き金事象
タンク火災が隣接タンクに延焼

事故に関係した直接・間接要因
《設計要因》消火・散水設備の未設置



ナフサタンクと隣接タンク7基の大規模火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

・大正海上火災保険(株)火災新種業務部安全技術課、クウェートで大規模タンク火災、安全工学、Vol.21、No.2、P.116-119、1982年

▶ 添付資料

 [事故発生場所概略図](#) (43 KB)

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 海上入出荷系

🔑 配管 > パイプ

🔑 浮屋根タンク > FRT, フローティングルーフトank, 浮き屋根タンク

▶ 関連情報